

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671500037		
法人名	社会福祉法人 未生会		
事業所名	グループホーム ちくりんえん		
所在地	〒629-0103 京都府南丹市八木町諸畑14番地		
自己評価作成日	平成30年2月21日	評価結果市町村受理日	平成30年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2671500037-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅淡町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成30年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は南丹市の緑豊かな自然に囲まれた場所に位置し、軽費老人ホーム・認知症デイ・ショートステイ・居宅介護支援事業所・訪問介護ステーションも併設されています。職員は利用者と一緒に家事を行ったり、レクリエーション等を一緒に行い、また体調の観察を常に行い、安心した毎日を過ごして頂き、楽しみや喜びを共に分かち合い生活出来る事が何よりも大事にしています。

山と畑に囲まれ静かな山里の雰囲気がある南丹市に「福祉ゾーン」とも言える「ラポール タウン」があります。運営母体は「社会福祉法人 未生会」です。南丹市八木町に老人福祉施設がないことから、昭和60年に軽費老人ホーム「ラポール 八木」を開設されたのに端を発し、平成12年には「グループホーム ちくりんえん」「訪問介護」「居宅介護支援」を併設され、次いで認知症デイサービス・ショートステイを開設されました。広い敷地にそれぞれ独立した施設を持ち、お互いに協力しながら運営されています。法人の基本理念を「帰家穩座」として「誰しも安心して穏やかに落ち着ける場所を提供したい」との思いで活躍されています。ラポールタウンには、垣根がなく入居者・利用者と地域住民とが自由に交流されています。お互いに支え合う関係が出来ています。グループホームの入居者の穏やかな笑顔と落ち着いた振る舞いから、日々の温かい支援を伺い知ることができます。入居者9人と小型犬1匹の家族が、職員・地域住民に優しく見守られて暮らしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「帰家穏坐」の法人理念が掲げている。事業所内にグループホームちくりんえんとして、法人の理念とは別に独自の理念「生活共同体」を掲げている。	法人の理念と共に、事業所としての理念を掲げている。「生活共同体」と表し“日常生活の活動を入居者と職員が協働で円滑に行えるよう、また、地域住民の拠り所となるような事業所でありたい”との思いを込めている。管理者と職員は、入居者一人ひとりが穏やかに落ち着ける場を提供している。	事業所の理念を「生活共同体」として、事業所の思いを具体的に表しておられて、分かりやすくなっています。リビングに貼り出しておられますが、地域住民や第三者には伝わりにくいのでは？と思われます。広く発信する方策を工夫して下さる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同施設内の行事に参加したり、地域の方から米や野菜などを購入。交流している。	施設の周囲には垣根がなく“ラポールタウン”になっており、地域住民はいつでもだれでも自由に訪れることが出来る。併設のケアハウスに大正琴などのボランティアが来られると、グループホームの入居者やみんなが集まって一緒に楽しんでいる。近在の住民が、草刈りに来られたり、八木町の福祉ふれあい祭りに参加したりなど、事業所と地域との交流は日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同施設内での行事に参加したり、認知症の方の支援や理解を得る様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催。南丹市・地域包括支援センター・地域・家族の代表の意見を聞いたり行事にも実際に参加して頂き話し合い、資質の向上に努めている。	会議には、行政担当者・地域包括支援センター職員・地域代表・家族代表などの出席がある。事業所からは経営責任者・幹部職員・管理者・計画作成責任者などが出席している。事業所の状況・行事などの報告後、出席者で情報・意見交換が活発に行われている。人員体制・虐待問題・無断外出の対応・認知症に関する地域への対応など多岐にわたり意見が出ている。職員の名札に関する意見も出た。出された意見などは、事業所の課題として真摯に受け止めて、サービスの向上に取り組んでいる。	会議は、多角的にいろいろ貴重な意見が出されて有意義な会議になっています。ただ、議事録が統一されていないので残念に思います。議事録の書式を統一されることを提案いたします。また、出された意見の中から「課題」を抽出し、議事録に明確に記載して、次回の会議で「課題」の検討結果を報告される事をお勧めいたします。

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に行政・地域包括支援センターの職員に委員として参加して頂き、現状を伝え意見を聞き施設の向上につとめている。ラポール通信でも家族を含め、関係各位にも伝えている。	運営推進会議に、行政の担当職員や地域包括支援センターの職員が出席しているので、事業所の状況は理解を得ている。今回は、感染症の流行期にあたり中止になったが、行政の職員と地域包括支援センターの職員などの協力で「餅つき」を計画していた。日常的に、行政・地域住民・事業所が密接に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修を通じさらに内部研修で個々でも研修。身体拘束しないケアを行っている。	事業所として「身体拘束をしないケアの実践」を掲げており、職員は研修で身体拘束をしないケアのあり方を学んでいる。身体面のみならず、精神面に関わる声かけや言葉遣いにも留意を払って支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修を通じ内部研修でも勉強し、虐待防止を心がけている。職員がストレスを溜め込まない様コミュニケーションを交わしながら業務に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在在、成年後見人制度利用予定者がおられる。過去に該当者が無く、行政と連携を取り対応に当たっている状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用契約書・重要事項説明書を十分に説明し、本人・家族に承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置き、面会時に意見を聞いたりしている。特に苦情等もなく、スムーズに運営させて頂いている。ご利用者の状況は面会時や書面または電話などで報告している。	意見箱には、意見や苦情に関するメモは入っていないが、日常的に来所時に職員との会話の中から聞き取るように努めている。運営推進会議に家族代表の方が出席しており、意見などを聞く機会を持っている。利用者からは、日常生活の中で、聞き取ったりくみ取ったりして記録して改善につなげるようにしている。運営に関する意見というより個人的な事柄がほとんどである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議または日頃の会話より意見や提案を聞き反映させている。業績会議にも出席。管理者が意見を述べています。	日常的に申し送りや業務の中で“気づき”を話し合っている。また、職員会議に於いても情報・意見交換を行っている。支援方法などもベテラン職員から教わったり、提案事例を検討したり有効な会議にしている。事例に応じて管理者が業績会議で報告して改善に繋がられるように努めている。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の力量に合わせた目標の設定し及び職員の抱える悩みや不安の解消。働きやすい環境整備に努めている。聞いた意見は業績会議等で報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体研修を毎月実施しその後内部研修を実施しスキルアップに努めている。また個々の事例を取り上げ確認し、ケアの共通認識を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設へ積極的に足を運び、職員との交流を深め、情報・意見交換を交わしている。他の職員にも情報報告している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や入居時に不安な事や好きな事・嫌いな事・趣味などを聞き、入居後反映出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規入居時、家族が困っている事や不安に思っている事等要望を聞き把握する様にしている。在宅での生活で好きな事や嫌いな事 趣味などを聞き施設での生活に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・見学・申し込み時に求められた事を見極め必要に応じて他のサービスも含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げてあるように、暮らしを共にする者同士、洗濯物をたたみや茶碗拭き等を一緒に行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・電話などで状況報告すると共に、家族の思いも理解し信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所への外出や家族と一緒に出かけの事もある。(年末年始に帰省される方もいる)外出の際は体調チェック等も行い、安心して出かけて頂ける様に努めている。	家族の来所も多く、一時帰宅や外泊・外食など家族の協力があって馴染みの関係が維持出来ている。年末年始を自宅で過ごされる入居者もある。ドライブを兼ねて、自宅を見に行くこともある。地域のお祭りに出かけて旧知の人に出会い、お互いに近況を話し合っている場面もある。併設のケアハウスの入居者などともイベントで一緒になり新しい馴染みの関係ができています。訪問美容の方とも新しい馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の個性の能力を理解した上で日常生活の関わりを持っている。また皆でできる事(歌をうたう・カルタ)などを行い、快適に過ごして頂ける様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先を時折訪問し、その後の暮らしを確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を聞き取り、困難な場合は今までの暮らしや趣味を加味しながら現状を取り入れている。職員会議でケース会議を行い、その人らしい生活が送れるよう計画を立てている。	入居前の面接時に、本人や家族などから生活歴や心身の状況・入居後の暮らしの希望など聞き取って所定の用紙に記録している。在宅の担当介護支援専門員や医療関係者からの情報も得て追記している。入居後は、日常生活の様子から、その人の思いや意向を把握して計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から本人・家族からこれまでの暮らしや思いや趣味を面談で把握。他サービス事業所・ケアマネからも利用者情報等をいただき把握に努めている。		

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに添った支援と日常生活の記録を毎日の職員で記載し職員会議でプランの進捗状況や新たなニーズの把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については月に1度のペースで職員会議を行い話し合いを持ち現状の把握やモニタリングをしている。3ヶ月に一度の割合で計画書の見直しをしている。	月に1度開催する職員会議でモニタリングを行っている。家族等や医療関係者からの情報も得て、職員間で検討している。心身状況に変化があれば随時検討の機会を設けている。入退院の際には、事業所と病院と双方向で情報交換している。医師の意見や看護サマリーなどを勘案して介護計画の見直しをして、実情に即した介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日常生活記録を記載。重要な部分には赤字で困ったりしている。その他、介護に必要な部分は業務日誌に記載し職員間の連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に答え、病院受診や買い物などに職員が付きそうなどの柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、同法人内の他事業所の行事等に参加し、互いに交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、かかりつけの医院のDrに訪問診療をしていただき、24時間体制で支援を受けながら適切な医療を受けて頂いている。	定期的に、かかりつけ医の往診を受けて健康管理を担ってもらっている。協力病院との契約も整備しており、24時間体制での対応が確保できている。 眼科や精神科などの受診は基本的には家族に依頼しているが、職員が付き添うこともある。薬に関しては、近在の薬局が分包など協力して貰って服薬ミスを防ぐように努めている。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の職員としては看護職員はいないが、同法人の看護師と日常の情報交換や緊急時の助言など気軽に行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供をすると共に入院中は何度も職員が面会に行き状況を見るよう務めている。その都度状況が把握できるよう医師や看護師等から情報を頂いている。通院時は地域連携とも調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の助言の下、出来るだけ早い段階から、本人・家族・職員が話し合う機会を設け、移行を行え出来る様にしている。	現在のところ見取りの経験はないが、主治医や家族などと話し合いを持ち、事業所として出来る範囲の支援を考えている。医療処置の事など勘案しながら、入院の選択肢を示し、その後の経過によっては他施設に移籍される場合もある。その人にとって最良と考えられる選択肢を大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新規入居時に家族には急変時の対応をお願いしています。また職員は万が一に備え、全体研修でも応急措置等の勉強もし、病院・医師と連携を取り適切な対応をとっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	合同の避難訓練を実施している。マニュアルに沿った対応が出来る様、常に話し合っている。	避難訓練は、併設施設と合同で実施している。災害マニュアルも作成し、有事の際の連絡網も整備している。事業所の周囲には垣根もなく開放的で有ることから、駐在所のおまわりさんの協力で防犯訓練を実施している。警官の妻も参加して警官の不在時には「私が駆けつける」と言って貰っている。地域住民の多くが“ラポールタウン”を守ろうとの意識が高い。備蓄用品や避難グッズなどそろえている。地域懇談会で災害時には、事業所が避難所になると表明している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室とし、プライバシーの確保もしている。声かけも人生の大先輩であることを忘れない。全体研修でも研修を行っている。	法人全体で、穏やかに安心して過ごせる居場所(家庭)づくりを目指している通り、一人ひとりを敬い、思いを大切に支援することを目標にしている。プライバシーを損ねないように、プライドや羞恥心を抱かせない様に細やかな配慮をしている。部屋に入るときは、必ずノックして声掛けをして入室するとか、排泄や入浴の介助の際には声掛けや言葉遣いには特に留意している。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活上のお手伝い食事や外出など、極力自己決定が出来る様に言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の身体の状況に合わせて対応している。みんなで体操してみたり、外に散歩したり、テレビを観て寛いで頂いたりと希望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度美容院が来て、カットをしている。衣類も出来る限り自分で選択、出来ない方は上下の色合いも考え本人に見てもらい、着てもらっている。ある方は化粧水を塗る等、肌の手入れもされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人一人の好みを理解し、月に1度の会議録で思いを伝えている。職員も一緒に食事しながら会話をする等し、楽しい雰囲気作りに心がけている。時には食事作りをし調理も手伝って貰っている。	食事は、毎日の楽しみの一つであり、特に入居者の好みを取り入れた献立に配慮している。「母の日お祝いお食事会」を開いたり、カレーやすき焼き・バイキングなど企画して、職員と一緒に楽しんでいる。料理の得意な入居者は職員と一緒に作る事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養バランスについては他事業所の栄養士が対応し、肉や魚・野菜などバランス良く提供して貰っている。利用者の食事・水分摂取量は個々に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、皆さんに声かけし対応している。また入れ歯の方については寝る前に入れ歯を外して頂き洗浄剤を入れるなどして清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の記入により、それぞれに応じた時間に声かけ誘導を行う事により、オムツの併用を減らす努力をしている。	基本的に、トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を活用して、声掛けや誘導を行っているが、自立している入居者も多くなっている。リハビリパンツから布パンツに変わった入居者もある。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表記入。水分や繊維質を多く含む食べ物の摂取・腹部のマッサージや運動などを行う。また、かかりつけ医にも相談し薬による対応も行い、気分よく過ごして貰う様になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯の希望までの対応は出来てないが、バイタルチェックをし、体調を把握し入浴している。また排泄状況によって、急遽清潔のためシャワーや入浴をしていただく事もある。基本一人対応で入浴支援をしている。	その日の体調や気分に合わせて入浴を決めている。入浴剤で気分を変えて入浴を楽しんでもらっている。ゆず湯やしょうぶ湯なども季節を感じてもらう機会にしている。入浴出来ないときは清拭をして清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせソファやベッドで休息して頂いている。 寝る際は馴染みのある寝具や枕・布団を利用して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に既往歴や現症を理解し服薬内容を確認。服薬時には名前と日を確認し口に入れ飲まれるのを見届けている。症状の変化も記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望や若い時の生活歴から歌をうたう事であったり、読書や洗濯・食器拭きなどをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昔、住んでいた所や地域に行ったり、ご家族と一緒に食事などお出かけしたりする。天気の良い日には外に出て散歩したりし、関わりを持つようにしている。	事業所の周囲は広々として、梅や桜などの樹々があり、散歩や外気浴・日光浴に最適な場所である。前庭には、季節の花が美しく咲き乱れており、一歩外に出ると心身共に癒される日常生活がある。時にはドライブに出かけたり、家族などと共に外出して外食を楽しむ機会もある。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の小口現金で管理している。日常生活品・外出時の飲食代等は一緒にレジまで行き支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を聞いたうえで、希望や状況に応じて電話や手紙のやり取りを支援している。家族への生活状況報告は随時職員が行い関係を保っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは利用者皆さんが落ち着けるように努め、同時に職員と関われるような環境を作っている。食事は勿論、テレビや音楽などを楽しまれる等、多目的である。	玄関を入ると一般家庭のような落ち着いた雰囲気がある。リビングは庭に面して大きな窓があり、適度な明るさがある。適度にテーブルを配し、思い思いの場所で寛いでいる光景があった。テーブルは食卓になったりゲームをしたりなど多目的に有効利用している。壁面には、入居者の作品であるカレンダーや日めくりなどが貼られているが、華やかな装飾にはなっていない。不快を感じるような音や臭いもなく落ち着いた空間になっている。特に小型犬(ちーちゃん)が我が物顔にチヨロチヨロ走り回っていることである。入居者9人と犬1匹が一つの家族になっている雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを2つに分け、ソファも2つ置き、気の合う方同士が座って話をしたりソファでゆっくりと休んで頂いただけのようにしている。独りになりたい方は自室でゆっくり休んで貰っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋は個々の馴染みのある家具や寝台を置き気持ちよく過ごして頂ける様にしている。	それぞれ好きなように持参した馴染みの家具を使いやすい様に配置している。カラオケセットを置いて楽しんでいる部屋もあり、一人ひとりの部屋作りが、その人柄を表しているようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に表札を付け(全ての部屋に表札を付けている訳ではない)場所の確認と同時に自立を促している。導線には手すり等を設置。スムーズに安定的にも配慮している。		